

これからのお寺

— 寺院の活性化に向けて —

長岡 岳澄

(ながおか がかちよう)

「シリーズ お寺はかわる」の
おわりに

お寺はかわる」では、何を指していたのか、そして、今後どのような方向を目指すのかということについて少し記しておきたいと思います。

シリーズの経緯

今号の『宗報』に掲載しています「シリーズ お寺はかわる 最終回へ人生の節目節目に」をもちまして、このシリーズはいったんの終了となります。そこで、この「シリーズ

「シリーズ お寺はかわる」は、宗門長期振興計画の【重点項目】⑧

「寺院の活性化対策」の一環として、教学伝道研究センターと寺院活性化推進部が連携して進めてきた企画です。

二〇〇八年七月号の『宗報』より掲載してきました本シリーズでは、十一カ寺のお寺からお話を伺い^{うかが}ました。また、本シリーズの前身として発刊された宗派内刊行物『寺院活動事例集 お寺はかわる』も合わせますと、三十カ寺ほどの寺院関係者からお話を伺ってきたことになりました。お話を伺った寺院関係者の皆様には、ご多用中にもかかわらず快くご協力いただき、まことにありがとうございます。

寺院の活性化に向けて

この企画では、寺院の活性化を目指して、全国各地のお寺におけるさまざまな取り組みを紹介、その情報

を役立てていただくことが第一の目的としてありました。

しかし、何か一つの効果的な取り組みがあったとしても、それがすべてのお寺に当てはまるとは限りません。各地のお寺には、それぞれの歴史・文化があり、また、置かれた状況も異なるからです。それぞれのお寺にとって活用可能な事例紹介とすするためには、可能な限り多様な取り組みを紹介していく必要があると考え、今号まで連載してきました。本来ならば、もっと数多くの事例を紹介する必要があり、まだまだ十分とは言えませんが、それでも幾ばくかは役立つ情報を提供できたのではないかと思います。

寺院の方向性

また、第二の目的として、これからの寺院の方向性を探っていくこと

がありました。これは、教学伝道研究所の研究事業として、寺院からの聞き取り、現状の把握を通して、寺院にとっての重要な要素とは何かを探り、今後の方向性について研究していこうとするものです。寺院の方向性についても、活動事例と同様に何か一つの寺院像があつて、そこに向かつていくというのではなく、それぞれの寺院に応じたさまざまな方向性があつてしかるべきだと思われまふ。しかし、そうしたなかにも、いくつかの重要な要素があり、それをなんとか見出し^{みい}ていこうとするものです。

これについてもまだ研究を継続していく必要がありますが、これまでの調査からもいくつか見えてきたことがあります。まずは当然のことだとも思われるでしょうが、住職や寺院活動の中心となる方の思い、信念です。積極的な活動をされている寺

院の住職方にお話を伺うと、必ずその熱い思いが聞いている私たちに伝わってきます。それは活動内容そのものへの思いであつたり、ご法義についてであつたりとさまざまなかたちがありますが、そこには他者に訴えかけるものを感じさせます。そして、このような思いをもつ住職の周りには、その住職の思いに^{こた}えるように門信徒の方が集まり、活動を支え、また、門信徒同士の繋がり^{つな}がりが築かれています。人の繋がりがそこにはあるのです。さらに、その繋がりは、お寺の中だけに留まるのではなく、地域社会へと広がつていき、地域そのものを支えていこうという意識を芽生え^めさせています。

住職の思い、門信徒の繋がりが、地域社会への貢献、こういった要素が現在の寺院にとっての重要な要素の一つであり、今後の方向性にとつても重要なものであると考えられま



す。今後は、さらなる要素を探り出すとともに、住職の思いや発想の転換はどこから生じてくるのか、門信徒同士はどのように繋がっていくのか、お寺と地域社会の関わりにはどのようなかたちが可能なかといった具体的な研究が望まれます。

社会の変化のなかで

「シリーズ お寺はかわる」は終了しますが、寺院の現場の把握を通して、これからの寺院の方向性を探っていくこうとする調査・研究は継続していきます。前述のように、より具体的な研究を進めていくとともに、現在、お寺が抱える問題について取り組んでいく予定です。

現在、お寺が抱える問題にもさまざまなものがありますが、特に非常に厳しい現実として過疎が挙げられます。宗門寺院の多くは農山漁業地帯に位置し、人口流出が続くなかで、過疎はかねてより重要な問題として取り上げられてきました。しかし、高齢化と相まって今日いよいよ過疎は深刻化し、寺院の維持も困難となっている地域が多々見られます。

厳しい現実ではありますが、過疎

の実態を直視し、そこから今後の過疎地寺院の方向性を探っていければと思っています。

寺院の現場には、さまざまな悩み、葛藤、そして、喜びがあります。そのような思いのうえに寺院は支えられ、門信徒の方々や地域の人々ともにあります。過疎の問題に限らず、寺院の現場の把握を通して、これからの寺院の方向性を探っていくこうした作業は、皆様のご協力のうえに成り立つものです。今後ともご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(教学伝道研究センター研究員)